



標梁自末

八

2  
4772  
6



特

門 2  
號 4772  
地 6



馬八

馬のつとと遊生もあつてん

たも馬八の音はうらむ

物ねぶ

ハッねぶ

今いそがしおとよねんこ物よ

りちのオオオオ

ああーそしおのりおのりおのり

らああうううううううううう

高田早苗



○と申すは、ふたつとも、ふたつとも、ふたつとも、ふたつとも

うづも、うづも、うづも、うづも、うづも、うづも、うづも、うづも

あけの氣晴るも、あけの氣晴るも、あけの氣晴るも、あけの氣晴るも

雨のうづも、雨のうづも、雨のうづも、雨のうづも、雨のうづも、雨のうづも

あけの氣晴るも、あけの氣晴るも、あけの氣晴るも、あけの氣晴るも

新

あけの氣晴るも、あけの氣晴るも、あけの氣晴るも、あけの氣晴るも

あけの氣晴るも、あけの氣晴るも、あけの氣晴るも、あけの氣晴るも

あけの氣晴るも、あけの氣晴るも、あけの氣晴るも、あけの氣晴るも

あけの氣晴るも、あけの氣晴るも、あけの氣晴るも、あけの氣晴るも

月の東、小田原、うづも、うづも、うづも、うづも、うづも、うづも

あけの氣晴るも、あけの氣晴るも、あけの氣晴るも、あけの氣晴るも

あけの氣晴るも、あけの氣晴るも、あけの氣晴るも、あけの氣晴るも

あけの氣晴るも

あけの氣晴るも、あけの氣晴るも、あけの氣晴るも、あけの氣晴るも

あけの氣晴るも、あけの氣晴るも、あけの氣晴るも、あけの氣晴るも

あけの氣晴るも

あけの氣晴るも、あけの氣晴るも、あけの氣晴るも、あけの氣晴るも

あけの氣晴るも、あけの氣晴るも、あけの氣晴るも、あけの氣晴るも

七  
中  
の

あつたまの  
あつたまの  
あつたまの

の

あつたまの  
あつたまの  
あつたまの

七  
中  
の

あつたまの  
あつたまの  
あつたまの

七  
中  
の

あつたまの  
あつたまの  
あつたまの

七  
中  
の

あつたまの  
あつたまの  
あつたまの

七  
中  
の

あつたまの  
あつたまの  
あつたまの

七  
中  
の

あつたまの  
あつたまの  
あつたまの

七  
中  
の

おのれをいふ事よ。秋の

秋

秋をいふ事よ。秋の

秋の事よ。秋の

名和月

秋の事よ。秋の

秋の事よ。秋の

秋の事よ。秋の

秋の事よ。秋の

秋の事よ。秋の

秋の事よ。秋の

秋の事よ。秋の

日

秋の事よ。秋の

秋の事よ。秋の

秋の事よ。秋の

林

二六〇五  
〇三〇五

〇三〇五

〇三〇五  
〇三〇五  
〇三〇五

〇三〇五

〇三〇五  
〇三〇五

〇三〇五  
〇三〇五

〇三〇五

〇三〇五  
〇三〇五  
〇三〇五

水

〇三〇五  
〇三〇五

〇三〇五

〇三〇五  
〇三〇五

〇三〇五  
〇三〇五

〇三〇五

〇三〇五  
〇三〇五

〇三〇五  
〇三〇五

〇三〇五

〇三〇五  
〇三〇五

あ

あつらひのついでに

いふもの

はらあやめはひはひのたかひ

あつらひのついでに

あつらひ

あつらひのついでに

あつらひのついでに

あつらひ

あつらひのついでに

あつらひのついでに

あつらひ

あつらひのついでに

あつらひのついでに

あつらひ

あつらひのついでに

あつらひのついでに

あつらひのついでに

あつらひのついでに



抱

抱

駒

駒の白尾  
駒の白尾  
駒の白尾  
駒の白尾  
駒の白尾

駒の白尾  
駒の白尾  
駒の白尾  
駒の白尾  
駒の白尾

駒の白尾  
駒の白尾  
駒の白尾  
駒の白尾  
駒の白尾

駒の白尾  
駒の白尾  
駒の白尾  
駒の白尾  
駒の白尾

駒の白尾  
駒の白尾  
駒の白尾  
駒の白尾  
駒の白尾

駒の白尾  
駒の白尾  
駒の白尾  
駒の白尾  
駒の白尾

駒の白尾  
駒の白尾  
駒の白尾  
駒の白尾  
駒の白尾

駒の白尾

駒の白尾  
駒の白尾  
駒の白尾  
駒の白尾  
駒の白尾

駒の白尾  
駒の白尾  
駒の白尾  
駒の白尾  
駒の白尾

駒の白尾

をぬきこぼす  
おのうけおぼせをうへへ  
のそこのうへへ

おのうけおぼせ

おのうけおぼせ

おのうけおぼせ

おのうけおぼせ

おのうけおぼせ

おのうけおぼせ

おのれは  
おのれは  
おのれは  
おのれは  
おのれは

おのれは  
おのれは  
おのれは  
おのれは  
おのれは  
おのれは  
おのれは  
おのれは  
おのれは  
おのれは

おのれは  
おのれは  
おのれは  
おのれは  
おのれは  
おのれは  
おのれは  
おのれは  
おのれは  
おのれは

おのれは  
おのれは  
おのれは  
おのれは  
おのれは  
おのれは  
おのれは  
おのれは  
おのれは  
おのれは

おのれは  
おのれは  
おのれは  
おのれは  
おのれは

おのれは  
おのれは  
おのれは  
おのれは  
おのれは

いふまにほのちのしよ

七五のまゝぬぬのしよ

石子補やうのしよ

紙のしよ

いふまのしよをうきわけて

いふまのしよをうきわけて

いふまのしよ

いふまのしよをうきわけて

五

いふまのしよをうきわけて

いふまのしよ

いふまのしよをうきわけて

いふまのしよ

いふまのしよをうきわけて

いふまのしよ

いふまのしよ

いふまのしよをうきわけて

いふまのしよ

五

紅

あつたはふたの 我にさるる  
あつたはふたの 我にさるる  
あつたはふたの 我にさるる

あつたはふたの

あつたはふたの 我にさるる

あつたはふたの 我にさるる

あつたはふたの

あつたはふたの 我にさるる

あつたはふたの 我にさるる

あつたはふたの

あつたはふたの 我にさるる  
あつたはふたの 我にさるる  
あつたはふたの 我にさるる

あつたはふたの

あつたはふたの 我にさるる

あつたはふたの 我にさるる

あつたはふたの

あつたはふたの

あつたはふたの 我にさるる

あつたはふたの 我にさるる

ちん

あはれなるていじんあはれなるていじん  
あはれなるていじんあはれなるていじん

雲

あはれなるていじんあはれなるていじん  
あはれなるていじんあはれなるていじん  
あはれなるていじんあはれなるていじん

あはれなるていじん

あはれなるていじんあはれなるていじん  
あはれなるていじんあはれなるていじん

あはれなるていじん

あはれなるていじんあはれなるていじん  
あはれなるていじんあはれなるていじん

あはれなるていじん

あはれなるていじんあはれなるていじん  
あはれなるていじんあはれなるていじん

あはれなるていじん

まことのあしむしむまの  
かろくしむしむしむしむ

まのまの

まのまのまのまのまのまの  
まのまのまのまのまのまの

まのまの

まのまのまのまのまのまの  
まのまのまのまのまのまの

まのまの

まのまのまのまのまのまの  
まのまのまのまのまのまの

まのまの

まのまのまのまのまのまの  
まのまのまのまのまのまの

新刊子種

善也 ちんてん かんらん ちんてん かんらん ちんてん かんらん

其後

ちんてん かんらん ちんてん かんらん ちんてん かんらん

渡辺轉名説

しんてん かんらん ちんてん かんらん ちんてん かんらん

しんてん かんらん ちんてん かんらん ちんてん かんらん  
しんてん かんらん ちんてん かんらん ちんてん かんらん  
しんてん かんらん ちんてん かんらん ちんてん かんらん  
しんてん かんらん ちんてん かんらん ちんてん かんらん  
しんてん かんらん ちんてん かんらん ちんてん かんらん  
しんてん かんらん ちんてん かんらん ちんてん かんらん  
しんてん かんらん ちんてん かんらん ちんてん かんらん  
しんてん かんらん ちんてん かんらん ちんてん かんらん  
しんてん かんらん ちんてん かんらん ちんてん かんらん  
しんてん かんらん ちんてん かんらん ちんてん かんらん

也 転名 用



たけりしはるりからけりしはるり  
水あらしの流のゆき

海きしき

海あらしの流のゆき  
何み新うらむるはるり

たけりしはるり

さゆりしはるり  
まゆりしはるり

海石の流のゆき

たけりしはるり

まゆりしはるり  
さゆりしはるり

海きしき

たけりしはるり  
まゆりしはるり

海きしき

たけりしはるり  
まゆりしはるり

うしありのこころのす、はるまゝ  
はうんとおちまひ、こころの  
ふりあそびを、まはるの  
あそびのかげに、こころに  
うかるといふ、まはるの  
はりのす、あそびを、久  
成と申す、おちまひと  
いふ、こころの、まはるの  
まはるの、あそびを、まはるの

とよ

雨中柳

みはるの、あそびを、まはるの  
又、おちまひと申す、おちまひ

春歌

あそび、あそび、あそび、あそび  
あそび、あそび、あそび、あそび

春歌

あそび、あそび、あそび、あそび  
あそび、あそび、あそび、あそび

春

春

トおろしぬおろしぬと  
わらわらおろしぬと  
あはれおろしぬと

君の子

かくしぬおろしぬと  
おろしぬおろしぬと

物

親はけや心持し  
おろしぬおろしぬと

おろしぬおろしぬと  
おろしぬおろしぬと  
おろしぬおろしぬと

君の子

おろしぬおろしぬと  
おろしぬおろしぬと

君の子

おろしぬおろしぬと  
おろしぬおろしぬと

市のかつ又まのきかへん  
せ人のたぐいあつたきき  
おとけういあつたきき

あまの

きりとりていやくいあつたき  
りまうのいあつたき

あまの

そよのあつたきあつたき  
せのあつたきあつたき

あまの

よきあつたきあつたき  
きあつたきあつたき

あまの

あつたきあつたきあつたき  
あつたきあつたきあつたき

あまの

あつたきあつたきあつたき  
あつたきあつたきあつたき

あまがうへさきよ、ちかきとくしつて  
はのおき、ゆえはらせし

極めよ、鈍りよりよ

しよあま、さきよのよ

あま、さきよのよ

とくしつて

あま、さきよのよ

あま、さきよのよ

あま、さきよのよ

あま、さきよのよ

あま、さきよのよ

あま、さきよのよ

杜若

あま、さきよのよ

あま、さきよのよ

杜若

あま、さきよのよ

もあつたふりて

あつた

あつたふりてあつたふりて

あつたふりてあつたふりて

あつた

あつたふりてあつたふりて

あつたふりてあつたふりて

あつたふりてあつたふりて

あつたふりてあつたふりて

あつたふりてあつたふりて

あつたふりてあつたふりて

あつた

あつたふりてあつたふりて

あつたふりてあつたふりて

あつた

あつたふりてあつたふりて

あつたふりてあつたふりて

あつた

あつた

さうとていふうまのあそびの  
がとあつたもたはたふん

子衣

うしろのちんちんはたはた  
こまのうまの子あそび

*あつたもたはたふん*  
*あつたもたはたふん*  
*あつたもたはたふん*  
あつたもたはたふん  
あつたもたはたふん  
あつたもたはたふん  
あつたもたはたふん

わすれぬあつたもたはたふん  
あつたもたはたふん

也

あつたもたはたふん  
あつたもたはたふん

牡丹

あつたもたはたふん  
あつたもたはたふん

あつたもたはたふん

子杖のきりしつちのちきりぬれ  
うさるひんりわのきり  
一歩ねまのかりりらまいけら  
あふとこりつめりしつち

乃後同章の郡東下のお  
のさふのけしつちあふい  
上つちさきまらまら  
るしにさのかわるる  
この郡のさつち

つちまらりしつちのち  
とちりしつち

何処か

つちのちのちのちのち  
つちのちのちのちのち

つちのちのちのちのち  
つちのちのちのちのち  
つちのちのちのちのち  
つちのちのちのちのち

名子也



イのつゝあまの宮のなまこめ  
秋のつゝあまの宮のなまこめ

三子かく

るふつゝあまの宮のなまこめ

あまのつゝあまの宮のなまこめ

あまのつゝあまの宮のなまこめ

あまのつゝあまの宮のなまこめ

あまのつゝあまの宮のなまこめ

あまのつゝあまの宮のなまこめ

あまのつゝあまの宮のなまこめ

あまのつゝあまの宮のなまこめ

あまのつゝあまの宮のなまこめ

あまのつゝあまの宮のなまこめ

あまのつゝあまの宮のなまこめ

あまのつゝあまの宮のなまこめ

あまのつゝあまの宮のなまこめ

あまのつゝあまの宮のなまこめ

くわんていしんせいのひんぎん

しんぎんせいのひんぎん

しんぎんせいのひんぎん

しんぎんせいのひんぎん

しんぎん

うわらわのひんぎん

おのれいごのひんぎん

五月

こふと又しんぎん

さあらのひんぎん

新粉

おのれいごのひんぎん

あさひのひんぎん

おのれいご

あさひのひんぎん

あさひのひんぎん

おのれいご

あさひのひんぎん

かしのこころの物なり

あそ

さるるまをさるるまをさるるまをさるるまを

さるるまをさるるまをさるるまを

ねむるまを

さるるまをさるるまをさるるまをさるるまを

さるるまをさるるまをさるるまを

さるるまをさるるまをさるるまをさるるまを

さるるまをさるるまをさるるまを

さるるまを

さるるまをさるるまをさるるまをさるるまを

さるるまをさるるまをさるるまを

さるるまをさるるまをさるるまをさるるまを

さるるまをさるるまをさるるまを

さるるまを

さるるまをさるるまをさるるまをさるるまを

さるるまをさるるまをさるるまを

さるるまを

あしはたふらふらまゝのまゝ

あつてはあつてはあつてはあつて

あつてはあつてはあつてはあつて

あつてはあつてはあつてはあつて

連林の記

あつてはあつてはあつてはあつて

あつてはあつてはあつてはあつて

あつてはあつて

あつてはあつてはあつてはあつて

あつてはあつてはあつてはあつて

あつてはあつて

あつてはあつてはあつてはあつて

あつてはあつてはあつてはあつて

あつてはあつてはあつてはあつて

あつてはあつてはあつてはあつて

あつてはあつてはあつてはあつて

あつてはあつてはあつてはあつて

あつてはあつてはあつてはあつて



かみらるるまにふらふら

初ああ

あやうきあやうきあやうき

あやうきあやうきあやうき

あやうきあやうきあやうき

あやうきあやうきあやうき

あやうきあやうき

あやうきあやうきあやうき

あやうきあやうきあやうき

あやうきあやうきあやうき

あやうきあやうきあやうき

あやうきあやうきあやうき

あやうきあやうきあやうき

あやうき

あやうきあやうきあやうき

あやうきあやうきあやうき

あやうきあやうきあやうき

あやうきあやうきあやうき

あまの

あまのきよきつねのあまのきよきつね  
あまのきよきつねのあまのきよきつね

あまのきよきつね

あまのきよきつねのあまのきよきつね  
あまのきよきつねのあまのきよきつね

あまのきよきつね

あまのきよきつねのあまのきよきつね  
あまのきよきつねのあまのきよきつね

あまのきよきつね

あまのきよきつねのあまのきよきつね  
あまのきよきつねのあまのきよきつね

あまのきよきつねのあまのきよきつね

あまのきよきつね

あまのきよきつねのあまのきよきつね  
あまのきよきつねのあまのきよきつね

三

夏

夏

そのちりしむるにけしむねいしこのあ  
まのちりしむるにけしむねいしこのあ

川柳

川柳 けしむねいしこのあ

けしむねいしこのあ

柳

柳 けしむねいしこのあ

けしむねいしこのあ

柳

けしむねいしこのあ

けしむねいしこのあ

柳

柳 けしむねいしこのあ

けしむねいしこのあ

柳

柳 けしむねいしこのあ

けしむねいしこのあ

柳









秋

まゝつてーのしーあ

秋夕

秋夕の月夜に  
ほろろとみゆる

秋夕

少ほ好之月夜に

秋夕の月夜に  
神の光を

何と云ふ

秋 秋

秋夕の月夜に  
神の光を  
秋夕の月夜に  
神の光を

詠水葛

秋夕の月夜に  
神の光を  
秋夕の月夜に  
神の光を  
秋夕の月夜に  
神の光を



根毛一伏三  
向旋

順。庭。神。能。大。知。世。乃。故。事。亦。考。  
訂。正。之。今。世。乃。人。不。教。之。百。不。題。也。  
十。地。圖。乃。物。部。不。教。字。之。乃。大。人。我。  
世。乃。振。凡。之。解。明。之。書。卷。之。也。  
日。其。職。亦。續。互。波。感。備。其。之。務。  
考。之。對。互。世。嘆。自。支。善。善。互。志。  
登。村。法。未。志。也。對。諸。天。總。計。也。  
之。子。山。河。也。其。百。室。隔。在。家。國。也。  
龍。而。位。海。乃。行。深。何。乃。為。深。便。

十六

白。土。德。在。月。日。米。經。行。久。其。同。也。  
米。具。之。對。見。針。武。事。子。亦。齊。亦。記。  
族。分。揚。也。在。隱。利。加。以。理。坐。之。也。  
今。年。年。也。世。年。餘。三。年。恒。之。也。  
轉。在。支。登。其。乃。乃。其。日。本。行。也。  
自。今。歲。乃。昔。乃。然。中。乃。口。也。  
日。之。對。也。乃。可。謂。也。打。行。乃。也。  
考。之。乃。取。乃。和。竹。取。阿。也。  
志。以。傳。則。登。之。天。德。當。也。亦。利。

記



秋

みづゝのふりさか

夕也

あつちのこゝろは  
ありけちのそらも

おしよち日

あつちのこゝろは  
月よしくめうけ旅人  
とてこゝろは水遊うれ

秋

あつちのこゝろは  
とてこゝろは

七月

あつちのこゝろは  
次年

あつちのこゝろは  
あつちのこゝろは



南 北 一 切 皆 佛 也

南 北 一 切 皆 佛 也

南 北 一 切 皆 佛 也

南 北 一 切 皆 佛 也

南 北 一 切 皆 佛 也

南 北 一 切 皆 佛 也

南 北 一 切 皆 佛 也

南 北 一 切 皆 佛 也

南 北 一 切 皆 佛 也

新 報 林

南 北 一 切 皆 佛 也

南 北 一 切 皆 佛 也

南 北 一 切 皆 佛 也

南 北 一 切 皆 佛 也

南 北 一 切 皆 佛 也

南 北 一 切 皆 佛 也

南 北 一 切 皆 佛 也

南 北 一 切 皆 佛 也

おのれいふはふのさへいふは

白

うらみのたのきなる白はしり  
けくあこころのや

年見日 三才又三才

あはれおれさうあはれさう  
あはれれくもの月さ

満月

あはれおれ、あはれさうあはれさう

秋

あはれおれさうあはれさう  
あはれおれさうあはれさう  
あはれおれさうあはれさう  
あはれおれさうあはれさう

白月夜

あはれおれさうあはれさう  
あはれおれさうあはれさう  
あはれおれさうあはれさう  
あはれおれさうあはれさう

ナキハシロシロシロシロシロシロシロ

冬

このおあまのゆめはあつたつた

あつたつたあつたつたあつたつた  
あつたつたあつたつたあつたつた  
あつたつたあつたつたあつたつた

梅衣

あつたつたあつたつたあつたつた  
あつたつたあつたつたあつたつた  
あつたつたあつたつたあつたつた

梅衣

あつたつたあつたつたあつたつた  
あつたつたあつたつたあつたつた  
あつたつたあつたつたあつたつた

あつたつたあつたつたあつたつた  
あつたつたあつたつたあつたつた  
あつたつたあつたつたあつたつた

梅衣

あつたつたあつたつたあつたつた  
あつたつたあつたつたあつたつた  
あつたつたあつたつたあつたつた

梅衣

秋の夜は静かに  
西の町は枝の影の  
うらみとわが心  
静かにあるは秋  
おま

秋の夜

くきとくはのけし  
月の想のあはれ

山平 清原のこころ

秋の夜

海路 ころりとはきき 静水の

つらぬくはのし

つばき

きき ちきつと

きき 秋の二

秋の夜

さふらぬ心かき

秋の夜

秋の夜

二  
わらうもかろ  
~~あみ~~

名取

大井川とく  
海の家

くしすのらよ  
佐用の印福

あつたき  
馬元盛高

五  
二十一日

あつたき  
あみ

あつたき  
あみ

あつたき  
あみ

あつたき  
あみ

あつたき  
あみ

あつたき  
あみ

あつたき  
あみ

あつたき

あつたき  
あみ

あつたき  
あみ

あつたき  
あみ

紅世の海

わくわくしてはちのわく、ふきくわ  
若世系代の新羅の王

机

又夢のうらたつるを  
あつらふまふかへん  
はつらふまふかへん  
はつらふまふかへん  
はつらふまふかへん

机

あつらふまふかへん  
あつらふまふかへん  
あつらふまふかへん  
あつらふまふかへん  
あつらふまふかへん

Blank page with some faint stains and a small mark near the top center.

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

Handwritten text in vertical columns, likely a title or index, written in cursive Japanese calligraphy (sōsho).

